

◆連携・交流◆

共に成長する 社会を目指して

本市では、公立大学になった理科大と地域が共に成長する社会を目指し、連携・交流を進めています。

理科大生が生活の中で地域とつながり、本市を“第2のふるさと”として愛着をもち、まちの活性化や地域を支える人材に育つことを目指しています。また、理科大の資源を広く活用してもらい、地域に愛される大学を目指して、様々な活動を行っています。

今回、その活動の一部を紹介します。

ひとづくり・まちづくり



科学の面白さを伝えたい

● かがく博覧会

本市と理科大が共同開催している「かがく博覧会」。おのだサンパークを会場に、毎年2日間にわたって、市内の小中学生の科学作品展示、市内の高校、理科大、企業が科学に関するブースなどを出展し、科学を学ぶ楽しさ・驚き・感動を体験できるイベントです。



理科好きの子どもを増やしたい

● ほんものの科学体験講座

理科大の資源を活用し、子どもたちの理科への興味・関心を育んでもらうため、平成19年度から毎年開催している理科支援事業。理科大の教員や学生が小中学生を対象に、学校の授業では体験することができない楽しい実験を行っています。



》》ものづくりプロジェクト教育

学びは教室の中だけにとどまらない。

■ 学生フォーミュラプロジェクト — スマートなクルマづくりへの挑戦 —

マツダ(株)でロードスターなどの開発を手がけた貴島孝雄教授を顧問とし、地元の自動車業界と連携しながら、車体の設計、製作、完成までを学生が行うプロジェクト。学生フォーミュラチーム(TUSY Formula)は、毎年、全日本学生フォーミュラ大会に出場。今年度の総合成績は、93チーム中20位を記録しました。

